

(2) 各組織の役割

■ 市（行政）

【庁内組織】

環境基本計画を総合的・計画的に推進するため、庁内関係部の代表からなる環境基本計画に関する総合調整を図る組織を設置し、関連する各担当部課との総合調整を行います。

また、施策の見直しにあたっての全庁的な総合調整を行います。

【事務局】

環境基本計画に関する各担当部課等からの情報の取りまとめや分析、各会議の連絡調整等の事務処理を行い、「栗原市環境審議会」へ報告・諮問を行うとともに、「栗原市環境審議会」からの提言・答申を受け、環境基本計画の進捗状況の取りまとめや公表などを行います。

また、環境に関する各種の情報や、支援制度などの情報収集を常に実施し、地域コミュニティ（自治組織等）や事業者、「（仮称）栗原市環境創造会議」等への情報提供を行います。

【栗原市環境審議会】

栗原市環境基本条例第21条に基づき設置され、環境の保全及び創造に関する基本的事項（環境基本計画）について、総合的に調査・審議を行い、環境基本計画の進行管理、施策や事業の推進及び見直しについて、総合的に審議します。

■ 市民・事業者等

【（仮称）栗原環境市民の会】

環境基本計画策定時の栗原市環境会議を母体とした任意の団体とし、環境に関心のある既存の団体等に属していない個人等の受け皿として、市民の目線から各種活動に参加します。

また、地域コミュニティ（自治組織等）と連携して、環境基本計画に位置付けている地域プロジェクト及び地域別行動計画の提案・実践をしていきます。

【（仮称）栗原市環境創造会議】

環境に関心のある地域コミュニティやNPO等の市民活動団体、事業者などの環境活動を実践している各種団体で構成し、各団体間の情報交換や協力・連携を図り、環境基本計画を効果的に推進するための中心的な役割を担います。

本会議は、交流を通して各団体間の理解と信頼関係の形成を図るとともに、事務局と連携して環境に関する情報の共有化や各種行事・事業などの横断的プロジェクトを協働で推進していきます。

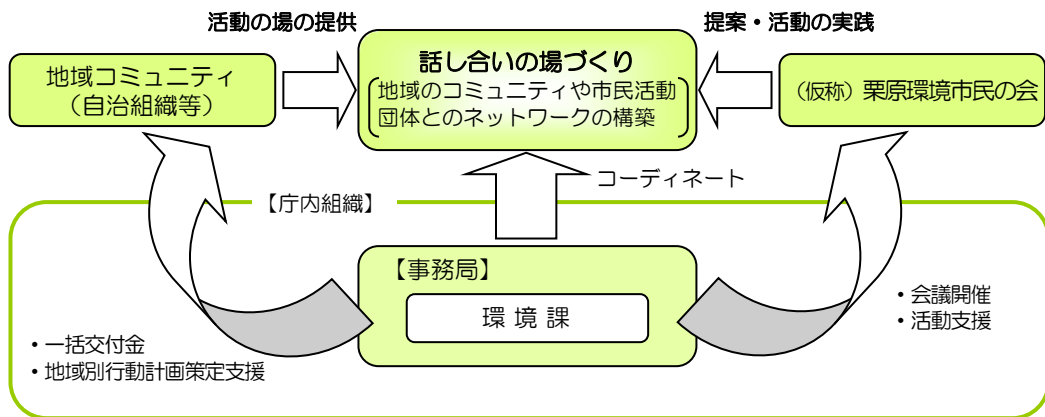
次ページに地域コミュニティやNPO等の市民活動団体、事業者などで構成される「（仮称）栗原市環境創造会議」を中心とした市民組織の推進体制の段階的な構築イメージを示します。

(3) 市民組織の推進体制づくり

初期段階では、事務局である環境課が中心となり、地域コミュニティ（自治組織等）の環境活動や環境基本計画策定時の環境会議を母体とした市民活動団体「（仮称）栗原環境市民の会」の活動の支援を行っていきます。支援の中で、自治組織と市民活動団体が話し合う場を創出し、各自治組織での環境活動に対して、アイデアの提供や地域活動に参加するなど、環境基本計画で位置付けている地域別行動計画の具現化に向け、各主体間での連携した取り組みの支援をしていきます。

このような試行的な取り組みを通して、段階的に既存の市民活動団体や事業者・NPO等との連携を構築し、横断的にプロジェクトを実行していける組織体制を構築し、「（仮称）栗原市環境創造会議」を組織し、市、自治組織、事業者、市民活動団体等の協働による横断的プロジェクトの実践と自立したコミュニティの育成を目指します。

■ 初期段階



■ 発展段階

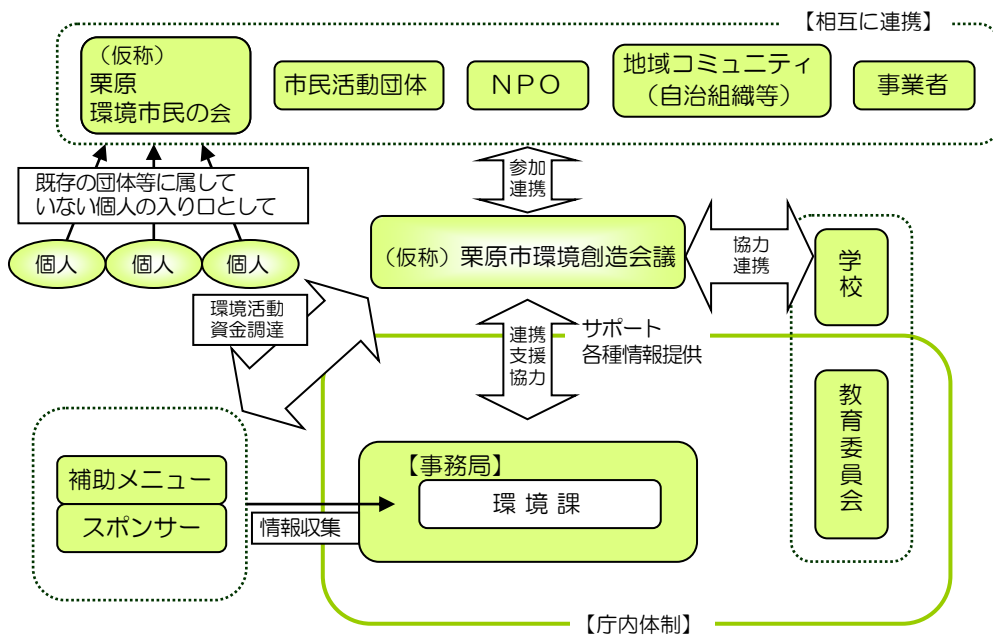


図6-2 市民組織の推進体制

(4) 全体の進行管理

本計画に掲げる施策を着実に推進するためには、計画の内容や取り組み方法について、策定後の環境の変化や、実施した施策の内容等を検証しながら、継続的な改善を図っていくことが重要です。

そこで、市が全体の進行管理を行うにあたり、本計画の実効性を確保していくために、ISO14001に規定する環境マネジメントシステムと同様のPDCAサイクルの考え方を採り入れます。

まず、①環境基本計画（Plan）に基づいて、②施策を実施（Do）し、③進捗状況の点検と結果の公表を行い（Check）、さらに④点検結果を踏まえて取り組みのあり方や計画を見直し（Action）、次の環境基本計画（Plan）に繋げ、らせんを描くように1周ごとにサイクルを向上させ、PDCAサイクルによる継続的な改善を図っていきます。



図 6-3 PDCAサイクルによる継続的な改善

(5) 地域別行動計画の進行管理

地域別行動計画の進行管理は、地域で行うものとし、本計画の5章で示した事例を参考にしながら、全体の進行管理と同様にPDCAサイクルによる継続的な改善を図りながら、以下に示すように段階的に取り組んでいきましょう。

■ステップ1：学ぶ

地域の資源や課題などについて流域圏を意識しながら考えてみましょう。その中で地域の環境保全の必要性や課題解決のための取り組み方や地域プロジェクトの例について学びましょう。市は情報の提供、相談等の支援を行います。

■ステップ2：試す

まずは、①行動すること（Do）がとても大切です。どんなに小さな活動でも構いません。とにかく行動してみましょう。②行動したことにより、これまでは気が付かなかったさまざまな課題が見えてきます（Check）。③この課題をもとに行動の改善（Action）を考えましょう。④これまでの取り組みを振り返りながら次の行動計画（Plan）を考え、もう一度行動していきましょう。市は地域の取り組みを活動事例として情報発信するとともに、地域で取り組む環境関連活動に対する支援を行います。

■ステップ3：実践する

このような試行的な取り組みを通して、将来的には地域の目標像を明確に持ちながら地域環境計画を策定し、目標の実現化に向けて活動を実践していきましょう。市は『地域別行動計画』の策定支援を行います。

